



ほのぼの

vol. 4

平成24年1月発行



センター専属キャラクター
こころちゃん

謹んで新年の
ご挨拶を申し上げます
もの忘れ疾患センタースタッフ一同



医療法人亀田病院
理事長
かまかわ けんじ
蒲池 匡文

理事長挨拶

暦が進み、新たな年を迎えました。昨年の大震災がまだ風化などしていないなか、年初に思いを新たにすの意味を今年ほど考えさせられる年も少ないのではないのでしょうか。何とか生活が残ったけれども、病院や保健施設が損なわれた被災地域は、大変なことになっているようでした。ふだん私たちの果たしている／果たすべき役割が浮き彫りになったように思いました。

私たちの認知症もの忘れ疾患センターも年を重ねることができました。皆様方のおかげであり、ここに感謝いたします。認知症といっても、段階・状態・環境がさまざまです。からだの病気の治療を常に要する方々もいらっしやいます。さほど進行していない方々にとっては、進行を遅らせるふだんの治療の工夫が求められます。生活を続けるために、症状の波があったときに一時期でも入院し落ち着いていただきたい場面も多いことでしょう。

これからも、私たちは陣容を整え、学習し、地域の皆様方のご期待に添えるよう努めて参りたいと存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

センターのご利用者様の声

センター開設から2年半が経ちました。

このたび、関係機関の皆様から、センターと連携してみてものご感想やご意見を頂戴いたしました。その一部をご紹介します。



センターができたことで、連携がとりやすくなりました。相談員にすぐ対応してもらったので、診察がスムーズでした。緊急受診に早い対応をしてくれたので助かりました。

緊急入院の必要性があるケースに対応してもらいました。退院前に施設の相談員も含めたカンファレンスをしてもらったことで、施設入所の前に情報を知ることができて助かりました。



一人暮らしをしている認知症高齢者の方の相談に、包括支援センターと連携をとりながら、受診につながるよう認知症もの忘れ疾患センターも関わってほしい。

受診拒否のケースを往診してもらいました。その後、通院につながり、介護認定を受け入れてもらうことができました。今は往診をしていないと聞きましたが、再開の予定があれば教えてください。

※現在、往診は休止中ですが、再開の際には改めてお知らせいたします。

地域連携室 室長紹介



12月から地域連携室の室長に着任いたしました^{おおみや}近江谷みつ子です。看護部長補佐との兼任になります。よろしくお願いいたします。



亀田北病院 認知症もの忘れ疾患センター

《受診予約・お問い合わせ先》

専用フリーダイヤル

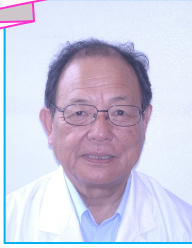
0120-010-701

月～金曜日 9:00～17:00 (土、日曜日、祝祭日はお休みです)

FAX専用ダイヤル

0138-46-5505

好好塾 ③



認知症もの忘れ疾患センター長
井上 芳郎

院長の井上です。ヒトは脳という脳の部分が極めてよく発達していることから、他の動物にない高いレベルの創造的な生活をする能力を獲得しました。そして、認知症やうつ病などの心の病気はこの脳の病気です。その脳についてお話ししましょう。

～大脳の仕組みとアルツハイマー病～

1 新生児の神経細胞の数は大人より多い！

おとなの脳では140億個ほどの神経細胞がありますが、生まれたての赤ちゃんではそれよりさらに多い数と推定されています。そして、私たちの脳では日々神経細胞が死滅しています。でも、神経細胞の数が減っても成長とともに知識が増え行動が多様化するのなぜでしょう。

2 神経細胞は学習することで進化！

胎児の頃の脳の神経細胞の形は単純な細長い形をしていますが、成長につれて木のように枝を伸ばして複雑さを増し体積も大きくなります(図1)。この時、外部からの様々な刺激(見る、聴く、学習するなど)を受けて、個々のヒトに特徴的な神経細胞が創造されていきます。

3 神経細胞はネットワークを作って機能！

無数の神経細胞が、コンピュータの集積回路のように回路網を作ってヒトの複雑な行動を支えています。この回路網は外部からの刺激や空想などの行動によって自律的に増加します。生まれたときに過剰の神経細胞を備えておき、回路からはずれると死滅する仕組みは生物学的に合理的といえます。

4 ネットワークを機能させるには伝達物質が必要！

コンピュータでは回路は素子同士が直接接着されますが、神経細胞同士は極めて狭い隙間で離れて接しており、その隙間に放出される化学物質(神経伝達物質)を介してつながり、ネットワークとして機能します。神経伝達物質には働き方から色々なタイプがあります(図2)。

5 アルツハイマー病について

このような脳の仕組みの中で、アルツハイマー病では正常よりも早い速度で記憶に関する部位の神経細胞が死滅していくことで、もの忘れが始まります。さらに神経細胞の死滅によりその神経細胞と関係がある回路網や神経伝達物質(図3)の働きに不具合が生じて、もの忘れ以外の症状も生じます。このとき、一人一人の患者さんの脳内に蓄えられた様々な記憶に関係した症状が生じると考えられています。

図1 大脳の神経細胞

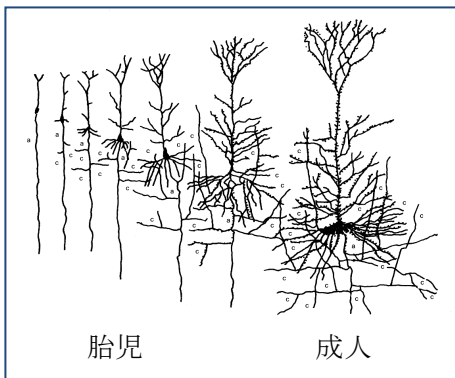


図2 神経細胞同士の接合部と神経伝達物質

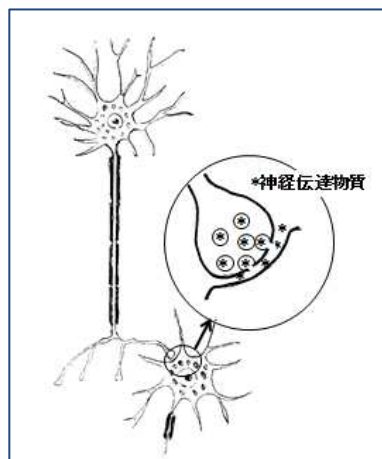


図3 神経伝達物質の種類

- ・グルタミン酸
 - ・γアミノ酪酸
 - ・グリシン
 - ・アセチルコリン
 - ・セロトニン
 - ・ドーパミン
 - ・ノルアドレナリン
 - ・アドレナリン 他
- ※下線は認知症に関係する神経伝達物質

平成23年11月22日、第5回認知症関係機関等連絡協議会(認知症ほのぼの交流会)を開催しました。

医療・介護・福祉・地域のチカラの重要性が問われる中、それぞれの垣根を越えた円滑なネットワークを構築し、認知症の方が住みやすい環境をつくらうという、これまで以上に大きな局面を迎えようとしています。

そこで今回は当院の松本秀章医師より、昨年発売された新薬を中心とした認知症治療についての講話がありました。

5回目の今回も、関係行政機関・地域包括支援センター・施設等の様々な職種の方々のご参加をいただきました。



家族会「ほのぼの」開催！！ 次回は平成24年2月23日(木)14:00

第4回家族会は「認知症の治療について」というテーマでした。センター長より認知症の症状や治療法についてわかりやすい解説がありました。

第5回は2月23日木曜日です。興味のある方は、センターまでご連絡ください。

～出前講座に行ってきました～

- H23. 7.11 高齢者介護複合型施設ライフプレステージ白ゆり富岡様
講話「認知症について」 胡医師
- H23.10.27 石川長寿会様
講話「認知症にならないために」 胡医師
- H23.11.19 函館市地域包括支援センターケアプラン研修会
講話「睡眠障害」 胡医師



出前講座ご希望の団体様へ

認知症もの忘れ疾患センターでは、認知症の方への関わり方について出前講座を承っております。

ご希望の団体様は、相談担当の山田、藤村までご相談ください。

編集後記

あけましておめでとうございます。
今年もセンター業務の充実を目指して、スタッフ一同頑張っています。
今年もよろしくお願いいたします。

※次回機関誌は平成24年7月頃の発行予定です。
機関誌担当 諏訪麻依子・山田正美



【発行元】
医療法人 亀田病院 分院 亀田北病院
認知症もの忘れ疾患センター

〒041-0802
函館市石川町 191 番地 4

センター専用フリーダイヤル
0120-010-701
FAX専用ダイヤル
0138-46-5505